

## 令和3年度 経営協議会学外委員からの意見に対する対応状況

	経営協議会等	学外委員からの意見	本学の対応状況
1	第105回経営協議会 (R3.5.21開催)  第107回経営協議会 (R3.9.28開催)	<p>ウィズコロナ、ポストコロナの時代において、SDGsの定着を図るため、山梨大学は知の拠点として行政や経済界とともに、中心となって取り組んでもらいたい。</p> <p>山梨県、各市町村、経済界、山梨大学及び山梨県立大学等が取り組みを行っているので、山梨県内のSDGsの取り組みは順調に進んでいるが、今後、更なる認知度の向上が必要である。</p>	<p>大学ホームページにSDGsに関する教育研究活動や取組等を紹介するための特設ページを開設するとともに、図時情報発信の内容充実を図っている。</p> <p>SDGsに係る産学官連携については、今後検討を進めていく。研究の分野においても山梨県との連携を進め、積極的に啓発活動を行っていきたい。</p>
2	第106回経営協議会 (R3.6.25開催)	<p>ダイバーシティの対外的なアピール及び福祉分野に係る地域貢献について、今後期待したい。</p>	<p>ダイバーシティについては、取り組みを進めているが、今後は積極的にアピールしたい。</p> <p>また、福祉分野の地域貢献についても、検討したい。</p>
3	第106回経営協議会 (R3.6.25開催)	<p>新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について、地域貢献のために他の組織等への接種についても積極的に実施してほしい。</p>	<p>令和3年6月からワクチン接種を行っており、本学学生・教職員だけでなく、地域貢献を踏まえ、県内の高校生、企業等を合わせて、約12万回の接種を行い、山梨県内の新型コロナウイルス感染症対策に全力を注いできた。</p>
4	第107回経営協議会 (R3.9.28開催)	<p>ネーミングライツ事業の実施にあたり、山梨の代表的な企業等への照会、新聞広告等での募集の際には、山梨大学内でどの建物等がネーミングライツ事業に向いているか確認する必要がある。</p>	<p>令和4年1月に、甲府キャンパスの講義室のうち1室が山梨大学初のネーミングライツ施設となった。</p> <p>今後も、本学の建物等を検証・確認したい。</p>
5	第108回経営協議会 (R3.11.25開催)	<p>収入を増やすことも必要であるので、ネーミングライツ事業の活用もあるが、それ以外にも、ふるさと納税等を利用してはどうか。</p>	<p>現在、国際交流に使用する資金を得るため、甲府市ふるさと応援寄附金(国際交流用)として、ふるさと納税の仕組みを利用している。</p> <p>増収につながるよう、更に広報等に力を入れたい。</p>

6	第109回経営協議会 (R4.1.20開催)	工学部の改組にあたって、医学部などと連携し、メディカルAIなどに対応できるような部門を将来的に設置してほしい。	大学院等で医工農学の融合教育を実施しているが、7学科から1学科複数コースに改編することにより、文理融合や諸学横断的な分野の設定など柔軟に対応できるようになるので、改編を機に他学部との更なる連携など新たな取り組みを検討していきたい。
7	第109回経営協議会 (R4.1.20開催)	山梨県外への学生流出を少しでも抑えるため、山梨県内で建築学を学んだ高校生が進学できるように、土木環境工学の中に建築学コースの設置を検討してはどうか。	建築分野のコースを新設するには課題があるが、例えば「景観」に関する分野を土木環境工学コースで教育することを含め、検討を加速させる。
8	第110回経営協議会 (R4.3.25開催)	新設される感染症学講座（寄附講座）の成果に期待している。 また、新型コロナウイルス感染症への対応などに必要な公衆衛生学の講座も設置を検討してほしい。	まずは、山梨県内における感染症の診療等を支える感染症専門医の養成に力を入れたい。 また、公衆衛生学分野の人材養成についても、今後検討したい。
9	第110回経営協議会 (R4.3.25開催)	ウクライナの学生に対する遠隔授業の提供について、オンデマンドの講義であれば、大学以外の場所やウクライナ国外からも受講できることになり、素晴らしい取り組みである。	令和4年4月～7月の間にAI（人工知能）等の工学系分野及び日本語の授業配信を行い、22名のウクライナ学生が単位を取得した。